

論文のタイプ	原著
Author	Li YF, Gilliland FD, Berhane K, McConnell R
Title	Effects of <i>in utero</i> and environmental tobacco smoke exposure on lung function in boys and girls with and without asthma.
和訳タイトル	喘息ある子供、無い子供における子宮内タバコ煙暴露および環境タバコ煙暴露の肺機能に対する効果
Journal	Am J Respir Crit Care Med.
巻	162
号	6
ページ	2097-104
年	2000
キーワード	<i>In Utero</i> exposure, Environmental Tobacco Smoke, Asthma 子宮内暴露, 環境タバコ煙, 喘息
読んだ人	北口良晃
読んだ期日	2009/2/1
重要度 (アカデミック)	1・2・3・ <u>4</u> ・5 (5点がとても重要)
重要度 (啓蒙的)	1・2・3・ <u>4</u> ・5 (5点がとても重要)
抄録	<p>母親の喫煙による子宮内タバコ煙暴露と環境タバコ煙暴露の肺機能に対する影響が、性別あるいは喘息によって変化するか否か調べるため、Children's Health Studyの参加者5263名の病歴とタバコの煙の暴露歴を調べた。</p> <p>子宮内暴露は肺機能の減少と関連した。喘息のある子供でより大きく減少した。子宮内暴露歴のある子供は最大中間呼気流量の減少を示し1秒率の減少を示した。子宮内暴露歴がある子供において喘息のない子供と比較して喘息のある男の子は有意に努力肺活量, 最大中間呼気流量, 1秒率の減少が大きく、喘息のある女の子は有意に1秒率の減少が大きかった。過去の環境タバコ煙暴露は喘息のある男の子において1秒量, 最大中間呼気流量, 1秒率の減少に関連があった。</p> <p>子宮内暴露と環境タバコ煙暴露の両者は永続的な肺機能の低下と関連した。子宮内暴露の影響は喘息のある子供において最も大きかった。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Eisner MD, Balmes J, Katz PP
Title	Lifetime environmental tobacco smoke exposure and the risk of chronic obstructive pulmonary disease.
和訳タイトル	環境タバコ煙の暴露歴と慢性閉塞性肺疾患の危険性
Journal	Environ Health.
巻	4
号	1
ページ	7
年	2005
キーワード	Environmental tobacco smoke, chronic obstructive pulmonary disease 環境タバコ煙, 慢性閉塞性肺疾患
読んだ人	北口良晃
読んだ期日	2009/2/21
重要度 (アカデミック)	1・ <u>2</u> ・3・4・5 (5点がとても重要)
重要度 (啓蒙的)	1・2・ <u>3</u> ・4・5 (5点がとても重要)
抄録	<p>大規模集団における55歳から75歳までのアメリカの成人2113例から得たデータを用いて、生涯にわたる環境タバコ煙に対する暴露歴と慢性閉塞性肺疾患を発症するリスクの関連を調べた。慢性閉塞性肺疾患の診断は、自己申告による慢性気管支炎、肺気腫あるいは慢性閉塞性肺疾患の医師の診断に基づき、暴露歴は電話による面接によって確定された。</p> <p>家庭や職場における暴露歴が長くなるにつれて、慢性閉塞性肺疾患のリスクの増加と関連がより大きくなった。最も長期間の家庭内における環境タバコ煙の暴露歴を有する群は慢性閉塞性肺疾患のリスクの増加と関連があった。最も長期間の職場における環境タバコ煙の暴露歴を有する群についても同様であった。人工寄与割合は最も長期間の家庭における環境タバコ煙の暴露歴の11%であり職場における暴露歴の7%であった。</p> <p>環境タバコ煙の暴露歴は慢性閉塞性肺疾患の重要な原因となり得る。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Anthonisen NR, Skeans MA, Wise RA, Manfreda J
Title	The effects of a smoking cessation intervention on 14.5-year mortality: a randomized clinical trial.
和訳タイトル	禁煙教育による 14.5 年後の死亡率に対する改善効果：無作為臨床試験
Journal	Ann Intern Med.
巻	142
号	4
ページ	233-9
年	2005
キーワード	Smoking cessation intervention 禁煙教育
読んだ人	北口良晃
読んだ期日	2008/2/21
重要度 (アカデミック)	1・2・ <u>3</u> ・4・5 (5点がとても重要)
重要度 (啓蒙的)	1・2・ <u>3</u> ・4・5 (5点がとても重要)
抄録	<p>Lung Health Study は禁煙の無作為化臨床試験である。特別教育参加者は禁煙教育プログラムを受けた。5887人の気道閉塞症状のない中年のボランティアを対象に行われた。</p> <p>禁煙教育プログラムは、医師の強いメッセージおよび行動修正、ニコチンガム、イプラトロピウムあるいはプラセボの吸入を用いた12のグループセッションを含む。</p> <p>5年で21.7%の特別教育参加者、5.4%の通常のケアを受けた参加者が禁煙した。14.5年後までに731人が死亡した。33%が肺癌、22%が心血管系疾患、7.8%が癌以外の呼吸器系疾患、2.3%が死亡原因不明であった。総死亡率は有意に特別教育参加者において低かった。喫煙習慣の有無によって死亡率を解析すると肺癌と心血管系疾患において違いはより大きかった。</p> <p>参加者の中で禁煙に成功したのは少数派であっても禁煙教育プログラムは、その後の死亡率削減の効果が明らかである。</p>

論文のタイプ	その他
Author	VIRGINIA PREMIER HEALTH PLAN, INC.
Title	Smoking Cessation Clinical Practice Guidelines 2008
和訳タイトル	禁煙臨床実践ガイドライン2008
Journal	
巻	
号	
ページ	
年	2008
キーワード	Smoking cessation treatment 禁煙治療
読んだ人	北口良晃
読んだ期日	2009/2/21
重要度 (アカデミック)	1・2・ <u>3</u> ・4・5 (5点がとても重要)
重要度 (啓蒙的)	1・2・3・ <u>4</u> ・5 (5点がとても重要)
抄録	<p>このガイドラインは、喫煙習慣のある患者に動機付けとなる禁煙教育と、強い習慣性に打ち勝つための効果的な治療を提供することを意図する、単純で柔軟性のある戦略を提供する。</p> <p>少なくとも70%以上の喫煙者は毎年1回は病院を受診し、また70%の喫煙者は禁煙したがっており、少なくとも1回は真剣に禁煙をする努力をしている。</p> <p>喫煙者に対し禁煙をする動機付けをすること、効果的な禁煙教育を全ての喫煙者に対し病院に来るたびに提供することが重要である。</p> <p>薬物治療、第一選択としてニコチン置換療法およびブプロピオン、第二選択としてクロニジンおよびノルトリプチリン、を適切に利用する。バレニクリンの利用も第一選択として考慮すべきである。</p> <p>妊娠中の喫煙者は徹底的な禁煙教育と治療を受けることを促すべきである。入院中の喫煙者は退院後に禁煙したままでいられるよう補助すべきである。</p> <p>最近禁煙をした患者の再喫煙を防ぐ教育をすることも重要である。</p>



論文のタイプ	その他 (論評)
Author	D.P.L. Sachs, N.L. Benowitz
Title	Individualizing medical treatment for tobacco dependence
和訳タイトル	たばこ依存症に対する個別化治療
Journal	The European Respiratory Journal
巻	9
号	
ページ	629-631
年	1996
キーワード	tobacco dependence, nicotine patch, cotinine level, double-blind trial たばこ依存症, ニコチンパッチ, コチニン濃度, 二重盲検試験
読んだ人	吾妻俊彦
読んだ期日	2009年2月22日
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	3
抄録	<p>今回 Paoletti らは、喫煙者をニコチン依存の程度 (血清コチニン濃度) により層別化し、軽依存者は標準用量群とプラセボ群に、強依存者は標準用量群と高用量群とに無作為に割付し、ニコチンパッチの有効性について検討した。軽依存者はプラセボに比して標準用量のニコチンパッチで良好な禁煙成功率を示した。強依存者では標準用量と高用量の間で成功率に差を認めず、軽依存者のプラセボ群と同様の結果であった。今回の試験結果と既存の報告から、望ましいニコチン置換療法について以下が挙げられる。1、治療開始前には血清コチニン濃度を測定すべき。2、コチニン値が 250mg/ml 以下のときは、標準用量のニコチンパッチが効果的となり得る。3、コチニン濃度が 250mg/ml より高値の際は、標準用量のニコチンパッチは治療法とはなり得ない。4、このような強依存喫煙者は、ポラクリレックスや鼻腔スプレーによる治療を考慮すべきである。</p>

論文のタイプ	原著
Author	D P Tashkin, R Kanner, W Bailey, et al.
Title	Smoking cessation in patients with chronic obstructive pulmonary disease: a double-blind, placebo-controlled, randomized trial
和訳タイトル	慢性閉塞性肺疾患患者における禁煙：二重盲検プラセボ対照無作為試験
Journal	The Lancet
巻	357
号	
ページ	1571-1575
年	2001
キーワード	smoking cessation, chronic obstructive pulmonary disease, bupropion, double-blind trial 禁煙, 慢性閉塞性肺疾患, ブプロピオン, 二重盲検試験
読んだ人	吾妻俊彦
読んだ期日	2009年2月22日
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	4
抄録	本研究では, COPD 患者の禁煙達成における徐放性ブプロピオン (ブプロピオン SR) の効果を検討した. 1日15本以上の喫煙歴を有する軽~中等症の COPD 患者 404 名が, ブプロピオン SR (150mg1日2回12週間) 群とプラセボ群に無作為に割り当てられた. 全患者に禁煙カウンセリングを行い, 禁煙開始の1週間前からブプロピオン SR 投与を開始した. 4週目から7週目までの完全禁煙達成率は, プラセボ群に対してブプロピオン SR 投与群で有意に高かった. 4週から12週までの禁煙達成率, 4週から26週までの禁煙達成率もブプロピオン SR 投与群で有意に高かった. 更に, 禁煙に伴う離脱症状もブプロピオン SR 投与群で軽微であった. プラセボ群13名, ブプロピオン SR 群14名で副作用のために試験が中止された. 軽~中等症 COPD 患者の禁煙において, ブプロピオン SR は忍容性も良好で効果的な手段である.

論文のタイプ	原著
Author	Yoshinosuke FUKUCHI Masaharu NISHIMURA
Title	COPD in Japan:the Nippon COPD Epidemiology study
和訳タイトル	日本における COPD の疫学研究
Journal	Respirology
巻	9
号	
ページ	458-465
年	2004
キーワード	airway limitation ; airway obstruction; chronic obstructive pulmonary disease ; epidemiology; prevalence ; smoking 気流制限 ; 気道閉塞;慢性閉塞性肺疾患;疫学;有病率;喫煙
読んだ人	平原奈奈
読んだ期日	2009/02/24
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	4
抄録	<p>アジアでは喫煙歴が高いにもかかわらず、COPD の有病率に関する研究は少数しかない。そこでスパイロメトリー使用し成人日本人を対象に COPD の有病率について研究をおこなった。40 歳以上の 2343 人の臨床データ、スパイロメトリー、危険因子暴露を調査した。気流制限は GOLD の criteria による FEV1/FVC&lt;70%とした。結果、気流制限は 10.9%にみられ、56%が軽症、38%が中等症、5%が重症、1%が最重症であった。注目すべきは気流制限は非喫煙者でも 5.8%に、60 歳以下でも 4.6%にみられた。</p> <p>日本における気流制限の有病率は以前の報告より高く、診断されていない COPD が多いことが示唆される。高齢化社会および喫煙率が COPD の医療費を増加させる。予防および治療介入の努力が必要である。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Lea Schirnhofner , Bernd Lamprecht , William M. Vollmer
Title	COPD Prevalence in Salzburg, Austria Results From the Burden of Obstructive Lung Disease (BOLD) Study
和訳タイトル	オーストリア、ザルツブルグにおける COPD の有病率
Journal	Chest
巻	131
号	1
ページ	29-36
年	2007
キーワード	airway obstruction ; Burden of Obstructive Lung Disease ; COPD prevalence ; smoking prevalence 気道閉塞 ; 閉塞性肺疾患の要点 ; COPD 有病率 ; 喫煙率
読んだ人	戸田玲子
読んだ期日	2009/02/24
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	4
抄録	<p>COPD の有病率と、社会、経済的な負荷を評価する事を目的とし BOLD 研究を行った。</p> <p>40 歳以上の 2200 人を調査した。肺機能検査は、気管支拡張剤吸入前後で行い、喫煙歴、呼吸器疾患の既往を記録した。非可逆性の気流制限は気管支拡張剤吸入後の 1 秒率 &lt; 0.7 と定義した。気管支拡張剤吸入後の肺機能検査で良質な結果が得られた 1258 人の中で、COPD I 期以上の有病率は 26.1% で男女とも同等であった。II 期以上 (1 秒率 &lt; 0.7 ; 予測 1 秒量 &lt; 80%) は 10.7%、I 期以上でも II 期以上でも有病率は、年齢および喫煙歴で増加した。医師による COPD 診断はわずか 5.6% であった。</p> <p>ザルツブルグの 40 歳以上の 1/4 は、少なくとも中等症の非可逆性の気流制限を有している。</p>



論文のタイプ	原著
Author	Jeniger N.Methvin, David M.mannino, Baretta R .Casey
Title	COPD prevalence in southeastern Kentucky
和訳タイトル	ケンタッキー州南東部におけるCOPDの有病率
Journal	Chest
巻	135
号	
ページ	102-107
年	2009
キーワード	COPD, epidemiology, prevalence, 疫学、有病率
読んだ人	中尾栄男
読んだ期日	2007. 2. 17
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	3
抄録	ケンタッキー州南東部でCOPD有病率を調べるために疫学調査を行った。18歳以上の325000人を対象にランダムに電話をかけ、質問に答えてもらった40歳以上の対象者に実際に面会し、気管支拡張薬吸入前後の肺機能検査を行った。15148件に電話し、全てのデータが揃った508人がエントリーした。301人(19.6%)がGOLDのstage I以上のCOPDであった。糖尿病、心疾患、高血圧の合併が著明に多かった。また、低肺機能ではQOLが低い傾向にあった。高齢者や喫煙者、低学歴等が多いために罹患率が高いものと考えられる。(過去現在喫煙者は58%であった。)

論文のタイプ	原著
Author	Zhong N, Wang C, Yao W
Title	Prevalence of chronic obstructive pulmonary disease in china: A large, population-based survey.
和訳タイトル	中国における COPD の有病率
Journal	American journal of respiratory and critical care medicine
巻	176
号	
ページ	753-76
年	2007
キーワード	COPD : prevalence : China : Survey : aging COPD、有病率、中国、調査、加齢
読んだ人	星野友昭
読んだ期日	
重要度 (アカデミック)	1・2・3・4・5
重要度 (啓蒙的)	1・2・3・4・5
抄録	<p>中国における COPD 患者が多いことは知られていた。しかしながら中国での COPD の有病率の調査はほとんど行われていなかった。都会及び田舎に居住の 40 歳以上の 25627 人の中国人に対し BOLD 研究を基にしたインタビューとスパイロメトリーを行った。25627 人中 20245 人がインタビューとスパイロメトリーの両方を行えた。このうち 8.2% (男性 12.4%、女性 5.1%) が COPD であった。田舎の居住者、高齢者、喫煙者、低 BMI、低教育レベル、台所の低換気、大量の職業粉塵の暴露、天然燃料使用者、年少時代の呼吸器疾患罹患患者、家族における呼吸器疾患罹患患者の存在で有意に COPD の罹患率は高かった。COPD 患者のうち 35.3% は症状がなく 35.1% の患者のみ気管支炎や COPD 等と診断されていた。6.5% の患者のみスパイロメトリーを使って診断されていた。</p>

論文のタイプ	原著
Author	M Bednarek, J Maciejewski, J Zielinski
Title	Prevalence, severity and underdiagnosis of COPD in the primary Care setting
和訳タイトル	プライマリ・ケアにおける COPD の有病率、重症度と過小評価
Journal	THORAX
巻	63
号	
ページ	402-407
年	2008
キーワード	Prevalence severity underdiagnosis COPD 有病率 重症度 過小評価
読んだ人	福島徳子
読んだ期日	2009. 2. 19
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	4
抄録	<p>プライマリ・ケアにおける COPD の有病率や重症度を評価する目的で疫学調査を行った。4730 人が登録され、そのうち 40 歳以上の 2250 人について評価した。喫煙の有無や呼吸器症状、学歴や社会的地位、気管支拡張薬吸入前後の肺機能を調査した。</p> <p>ポーランドの Sierpc にある 3 つのプライマリ・ケアにおいて調査した。COPD と診断されたのは 183 人(9.3%)であった。軽症 30.6%、中等症 51.4%、重症 15.3%、最重症 2.7%であった。喘息の診断は 122 人であった。今回 COPD と診断された中で、以前から指摘されていたのは 34 人だけであった。多くの COPD 患者が今回発見され、治療が必要であった。喫煙者に限っても 26%が見逃されていた。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Andrés Caballero, Carlos A. Torres-Duque, Claudia Jaramillo
Title	Prevalence of COPD in Five Colombian Cities Situated at Low, Medium, and High Altitude (PREPOCOL Study)
和訳タイトル	コロンビアの5都市の低、中、高階級における COPD の蔓延
Journal	CHEST
巻	133
号	
ページ	343-349
年	2008
キーワード	airflow obstruction; altitude; chronic bronchitis; COPD; emphysema. 気流制限、階級、慢性気管支炎、COPD、肺気腫
読んだ人	坂崎 優樹
読んだ期日	2009/02/18
重要度 (アカデミック)	1・2・3・4・5
重要度 (啓蒙的)	1・2・3・4・5
抄録	<p>コロンビアの5つの都市で40歳以上の人を無作為に抽出し、面接、及びサルブタモール吸入前後のスパイロメトリーを施行した。COPDの診断は①気管支拡張薬吸入後の一秒率70%未満、②内科医によって慢性気管支炎、肺気腫、COPDと診断されていること、③臨床症状：咳及び過剰な痰が連続2年以上で3ヶ月以上続いていることとした。5539人の参加者のうち、スパイロメトリーで診断されたCOPDの総有病率はバランキーヤ地方で6.2%、メデリン地方で13.5%であった。スパイロメトリーによる診断は内科医による診断(2.8%)、臨床症状による診断(3.2%)に比べて有病率が高かった。ロジスティック回帰分析ではCOPDに関連する因子は60歳以上、男性、結核の既往、喫煙、10年以上の木煙への暴露、低い学歴であった。</p>



論文のタイプ	原著
Author	A Sonia Buist, Mary Ann McBurnie, William M Vollmer
Title	International variation in the prevalence of COPD (The BOLD Study): a population-based prevalence study
和訳タイトル	COPD の有病率における国際的な多様性
Journal	Lancet
巻	370
号	
ページ	741-750
年	2007
キーワード	COPD , prevalence , BOLD study , 喫煙 慢性閉塞性肺疾患, 有病率, BOLD study, smoking
読んだ人	戸田玲子
読んだ期日	2009/02/24
重要度 (アカデミック)	5
重要度 (啓蒙的)	5
抄録	<p>12 の都市で気管支拡張剤吸入後の肺機能検査と呼吸器症状、健康状態、COPD のリスクファクターへの暴露についての質問票記載を行い、COPD の有病率を検討した。</p> <p>9425 人を対象とし、COPD II 期以上の有病率は全体の 10.1%(SE 4.8)、男性 11.8% (7.9)、女性 8.5%(5.8)であった。10 歳年齢が上がる毎のオッズ比は、都市、男女間で同等であった。10 歳毎に罹患率は上昇し、オッズ比は 1.94(95%CI 1.80-2.10)で、パッキイヤーでのオッズ比は、特に女性で有意差があった (pooled OR=1.28, 95%CI 1.15-1.42, p=0.012)が、男性では有意差はみられなかった (1.16, 1.12-1.21, p=0.743)。</p>

論文のタイプ	原著
Author	van Durme YM, Verhamme KM, Stijnen T et al.
Title	Prevalence, Incidence, and Lifetime Risk for the Development of COPD in the Elderly: The Rotterdam Study
和訳タイトル	高齢者における COPD の罹患率、発症率、発症に関する生涯リスク (ロッテルダム study)
Journal	CHEST
巻	135
号	
ページ	368-377
年	2009
キーワード	COPD, epidemiology (pulmonary), incidence, lifetime risk, prevalence COPD、疫学、発症率、生涯リスク、罹患率
読んだ人	横山 俊伸
読んだ期日	2009/02/18
重要度 (アカデミック)	1・2・3・4・5
重要度 (啓蒙的)	1・2・3・4・5
抄録	<p>COPD の罹患率はすでに多く報告されているが、発症率については少数の研究があるのみである。今回、55 歳以上を対象とした population-based 前向きコホート研究において、診療録やスパイロメトリーから COPD の診断を行った。</p> <p>7983 名の参加者において 11 年間(中央値)の観察中に 648 名が COPD と診断された。発症率は 9.2/1000 人年であった。発症率は女性 (6.2/1000 人年)より男性において高い結果(14.4/1000 人年)であった。また喫煙者(12.8/1000 人年)において非喫煙者(3.9/1000 人年)より高かった。注目すべきはもっとも若い 55 歳から 59 歳の女性群で COPD の発症率が 7.4/1000 人年と高かったことである。55 歳の時点でまだ COPD に罹患していない男性ならびに女性のそれぞれ 24%、16%がその後の 40 年間に COPD を発症する危険がある。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Juan P. de Torres Arantza Campo Ciro Casanova
Title	Gender and Chronic Obstructive Pulmonary Disease in High-Risk smokers
和訳タイトル	高リスクの喫煙者における性差と COPD コロンビアの 5 都市の低、中、高階級における COPD の蔓延
Journal	Respiration
巻	73
号	
ページ	306-310
年	2006
キーワード	Chronic Obstructive Pulmonary Disease・Gender・High-Risk smokers・Lung function test 慢性閉塞性肺疾患・性・リスクの大きい喫煙者・肺機能
読んだ人	富岡 竜介
読んだ期日	2009/02/18
重要度 (アカデミック)	3
重要度 (啓蒙的)	3
抄録	<p>795 人の喫煙者において、肺機能検査を施行し GOLD の診断基準を使用して気道閉塞を決定した。男性において COPD は高齢で、より重喫煙者であった。開始年齢や 1 日の喫煙本数に関しては、差がなかった。</p> <p>COPD 有病率は、パックイヤーに無関係にすべてのカテゴリーにおいて女性のほうが低かった。(I : 9 対 19% II : 16 対 28% III : 28 vs. 39%, IV : 25 対 42%は、それぞれ、<math>p &lt; 0.001</math> である)。</p> <p>50 年以上の人々において、34%の男性と 17%の女性 (<math>p &lt; .001</math>) は、COPD を有した。</p> <p>喫煙者における COPD の有病率は、以前の報告より高かった。同じ喫煙歴をもつリスクの大きい喫煙者において、有病率は男性より女性で低かった。女性のほうが気道閉塞の発現に対し低い喫煙感受性が示された。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Anne Lindverg, Anders Bjerg-Backlund, Eva Ronmark
Title	Prevalence and underdiagnosis of COPD by disease severity and the attributable fraction of smoking: Report from the Obstructive Lung Disease in Northern Sweden Studies.
和訳タイトル	COPD の重症度と喫煙が起因する割合に関する有病率と過小評価：北スウェーデン研究における閉塞性肺疾患に関する報告
Journal	Respiratory Medicine
巻	100
号	
ページ	264-272
年	2006
キーワード	COPD、Severity、Smoking、Attributable fraction 慢性閉塞性肺疾患、重症度、喫煙、起因する割合
読んだ人	関塚友美
読んだ期日	2009/2/19
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	4
抄録	<p>COPD は過小評価されやすく、疫学的データも不足している。このため、BTS や GOLD のガイドラインによって定義される COPD の罹患率と過小評価に関して研究した。COPD 有病率は、BTS の診断基準では軽症 5.3%、中等症 2.2%、重症 0.6% (GOLD の診断基準では軽症 8.2%、中等症 5.3%、重症 0.7%、超重症 0.1%) であった。重症 COPD の患者は症状を有していた。診断率は、BTS の診断基準で、重症 50%、中等症 19%、軽症はわずか 5% であった。主な危険因子は年齢と喫煙であり、COPD の有病率に影響を及ぼす。症状を有しているにも関わらず重症 COPD 患者の半分しか適切に診断されず過小評価されている。62 歳以上になると非喫煙者でも COPD が増加する。BTS 基準では、既喫煙者の OR は高齢になると 15.75、と増加し、現喫煙者では 33.66 と高値であった。喫煙と加齢は重要な危険因子であり、相乗効果があることが推測された。</p>



論文のタイプ	原著
Author	CHI-HUEI-CHIANG
Title	Cost analysis of chronic obstructive pulmonary disease in a tertiary care setting in Taiwan
和訳タイトル	台湾の3次医療における慢性閉塞性肺疾患のコスト分析
Journal	Respirology
巻	
号	13
ページ	689-694
年	2008
キーワード	COPD ,direct cost, exacerbation, health-care resource utilization 慢性閉塞性肺疾患, 実費、増悪、医療財源利用
読んだ人	武岡 宏明
読んだ期日	2009/02/24
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	5
抄録	<p>COPD の患者で、各重症度においてのコストについて検討し、キーとなるコスト分析を行った。</p> <p>2003 年～2004 年までの COPD 患者におけるコスト（内服、酸素療法、血液検査、入院歴等）を診療記録より調査した。160 人の患者次の 3 群に分けた（moderate A <math>50 \leq FEV1\% &lt; 80</math> n=54, moderate B <math>30 \leq FEV1\% &lt; 50</math> n=54, severe <math>FEV1\% &lt; 30</math> n=52）年間の増悪頻度は moderate A; 0.85 moderate B; 2.6 severe 3.5 であった。また、ER 搬入の頻度は moderate A; 0.41 moderate B; 1.20 severe; 1.73, かかるコストの中央値は moderate A; \$ 38203 moderate B; \$ 149031 severe; \$ 288825 であった。毎年のコストは severe 群にて最も費やしており、その内入院治療が最も多かった。COPD のコストとコストの多くを占める病状悪化に伴う入院治療は、COPD の重症度と強く相関していた。今後については、最重症と急性増悪の患者を減らす事が、コスト削減につながると思われる。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Kinnunen T et
Title	The COPD- induced hospitalization burden from first admission to death.
和訳タイトル	COPD での初期入院から死亡までの病院の負荷
Journal	Respir Med
巻	101
号	
ページ	294-299
年	2006
キーワード	COPD 慢性閉塞性肺疾患 hospitalization burden 病院の負荷
読んだ人	城野 奈穂子
読んだ期日	2009/02/18
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	4
抄録	<p>入院時 44 歳以上の COPD 患者の初回入院以降の入院治療期間の全てのデータを 1991 年から 2001 年にかけての the Finish National Research and Development Center から集めた。この Study では初期治療後生きているが 2001 年までに亡くなった患者を対象とした。この study での対象 8325 人の患者は 1991 年から 2001 年に合計 35814 回入院した。そのうち男性は 73.6%であった。1895 人 (22.8%) は一年以内に死亡し 4257 人 (51.1%) は 1~5 年以内に死亡した。2173 人 (26.1%) は 5 年以上の経過の後死亡した。1 年以内に死亡した患者のうち 20.9%は病院での治療をうけた。1 年以上生きた患者のうち余命が 3 分の 2 残っている場合その 4.5%は病院にいた。余命が 10 分の 1 残っている場合その 7.3%は病院にいた。COPD 患者の 4 分の 1 は初期入院後から 1 年以内に死亡した。余命の少ない COPD 患者は公共医療を豊富に利用している。重症 COPD 患者では終末期医療が増える。</p>

論文のタイプ	原著
Author	N. Mittmann, L. Kuramoto, S. J. Seung
Title	The cost of moderate and severe COPD exacerbations to the Canadian healthcare system
和訳タイトル	カナダのヘルスケア制度における中等度から重度の COPD の費用
Journal	Respir Med
巻	102
号	
ページ	413-21
年	2008
キーワード	Chronic obstructive pulmonary disease : 慢性閉塞性肺疾患 Cost : 費用 Exacerbations : 増悪 Health care utilization : ヘルスケアを利用すること
読んだ人	下村 豪
読んだ期日	2009/02/18
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	5
抄録	<p>この研究の目的はカナダの見解から中等度から重度の増悪（それぞれ ME と SE）にかかる費用を特定するためのものである。増悪における人口に対する負荷もまた算出された。結果として研究に参加した患者の中では 790 の増悪症例（うち ME が 80.9%、SE が 19.1%）があった。790 の症例のうち外来診療所が 78.2%、救命救急が 31.0%、また病院への訪問が 19.1%であった。ME で抗生剤が 63.1%、ステロイドが 34.7%で、外来患者における費用と ME における薬物の費用はそれぞれ\$126 と\$515 であった。ME の平均費用は\$641 であった。SE に関しては入院患者で平均在院日数は 10 日である。SE のための通院患者と入院患者の平均コストは\$774 と\$8669 であった。ME と SE に関連する経済負荷はカナダにおいては無視できない。総合的な負荷としては 1 年あたり 6 億 4600 万ドルから 7 億 3600 万ドルと見積もられている。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Joseph Menzin Luke Boulanger Jeno Marton
Title	The economic burden of chronic obstructive pulmonary disease(COPD) in a U.S.Medicare population
和訳タイトル	USにおける老人性医療保険を持つ人の慢性閉塞性肺疾患に対する経済負担
Journal	Respiratory Medicine
巻	131
号	1
ページ	1248-1256
年	2008
キーワード	COPD Economics Treatment costs 慢性閉塞性肺疾患 経済面 治療費
読んだ人	武岡 宏明
読んだ期日	2009/02/24
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	5
抄録	<p>COPDの経済負荷は年々増加しているが、USにおける老人医療保険制度を受けている人のCOPDのコストデータは不足している。今回は、老人医療保険を管理するデータベースを基に、2004年に65歳以上の老人医療保険を受けている人を対象とした。COPD群(837人)、対照群(25110人 COPDでない人も含む)の二群に分け、治療費の差(合併疾患に費やしたコストも含む)について検討した。</p> <p>結果は、COPDの患者は、受診する率が高く、対照群に比べ、\$20500もの過剰コストを要した。また、COPD患者群は、合併症が多く、他の呼吸器疾患よりも治療コストは高かった。</p> <p>(COPDにかかるコスト平均は、\$6300、他の呼吸器疾患\$4400)</p> <p>今後、高齢化が進む中でのCOPDにおけるコスト分析は驚くべきものになるだろう。</p>